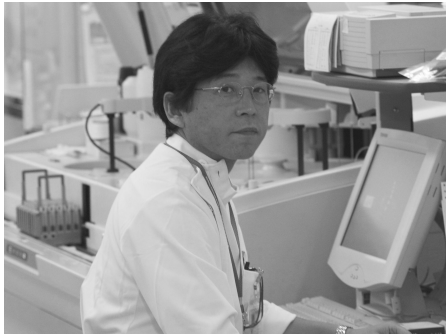


Ⅳ. 健康食品管理士の資格者として



健康食品管理士となって

多田 達史

(香川大学医学部附属病院)

私は臨床検査技師として24年目を迎えます。昨年、健康食品管理士の資格を修得しました。何故臨床検査技師である私が、健康食品管理士資格を得ようと思ったかをお話する前に、多職種からなる健康食品管理士の皆様に臨床検査についてご紹介したいと思います。

臨床検査は「道しるべ」

臨床検査は患者様の身体情報を調べ、「健康」という目標への「道しるべ」だと思います。

基本は疾患の早期発見・予防、診断・治療方針の決定などですが、治療法の適切・不適切の判定にも重要です。臨床検査は生理機能検査と検体検査に区別できます。生理検査として心電図・脳波検査はもちろん、超音波やMRI等を使う画像検査、眼底写真・聴力検査なども含まれます。

一方、検体検査は、血液検査、生化学検査、免疫検査、微生物検査、病理検査、遺伝子染色体検査、輸血検査、一般検査などがあります。その他、バイオアッセイを用いた特殊検査などを含めると膨大な業務範囲になり、あらゆる生態試料の目的物質の分離、分析、定量、解析をおこなっているのです。

臨床検査技師の新たな業務

さらに、最近では検査室の外（患者様の近く）での業務も注目されています。具体的には感染対策チーム（ICT: Infection Control Team）、栄養サポートチーム（NST: Nutrition Support Team）、糖尿病療養指導などの組織横断的なチーム医療への参加です。私は生化学検査を日常業務とし、チーム医療には、NSTとして毎週1回の病棟回診、毎月1回の糖尿病教室に参加しています。

健康食品管理士資格を取得した理由

私が健康食品管理士について興味を持ったのは、このチーム医療に参加していて必要だと考えたからです。私の場合、糖尿病教室で臨床検査の話をしています。患者様はそれなりの興味を持って聞いてくれますが、質問は健康食品や民間療法に関するものが多かったのです。私は最後に「スーパーサイズ・ミー：<http://www.supersizeme.com/>」の話をするので、この質問が多くなったと思いますが、常に健康食品に関する知識とそのメカニズムを理解し、それをわかりやすく情

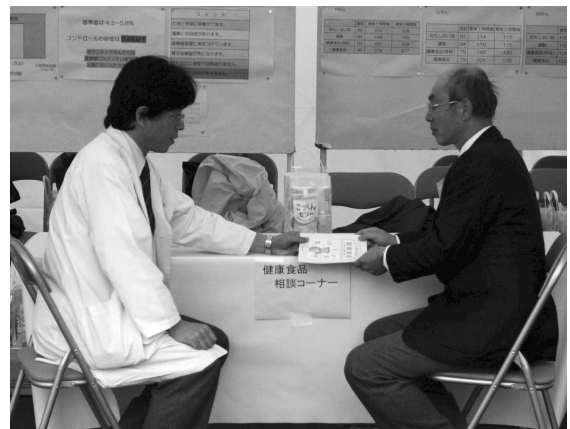
報提供する必要があると思っていました。

健康食品管理士になってから・・・

さて、健康食品管理士になってからですが、主に外来患者様と関わる時に有効です。

入院患者様は、ある程度栄養管理をされている環境にあります。外来患者様はいつでも自由に食品を購入して摂取することが出来ますし、糖尿病に関する健康食品は沢山あるので、「健康食品管理士資格を持っていますよ」と言うと、教室では質問を沢山してきます。それだけ患者様は情報を欲しているのです。

実際には、本資格を得るための知識はもちろん生化学的な知識も有効に使えるので、健康食品管理士になって良かったと思っています。事例としては、糖尿病教室で、患者様がある植物抽出エキスの健康食品について、広告をお持ちになり、これは有効なのか？と言われました。内容的には、患者様と思われる人たちの体験談とかが書かれていて、どのような成分がどのような機序で効果があるとかの情報は全然ありません。このように内容のはっきりしない物に関しては、何が入っているか分かりませんので、やめておく事をお勧めしました。その時に、天天素の事件などを例にあげて、食品だからといって安全とは思わないように説明しました。後ほど、その食品は特許を持っているとのことだったので、特許・実用新案文献番号索引照会をし、内容も確認したのですが、結局何がどこに作用して、糖尿病に良い効果があるのか分かりませんでしたし、安全性に関しても信頼できるものは見つからなかったです。患者様には、食品は効能よりも安全性が優先されるべきであり、すべての物質は毒性を持っていることなど、丁寧に説明して納得していただきました。



終わりに

最近の健康志向から、マスコミにも健康食品はよく取り上げられています。それは、国民が現在の食品や食生活を含む飽食の時代に危機感を感じているからではないでしょうか？

NSTも糖尿病教室も栄養管理の重要性は変わりません。もっと大きく考えてみましょう。経口的医薬品も食品も経腸的に外来物質を摂取します。それぞれの摂取目的とか由来は違っていますが、経腸摂取という点は同じなのです。つまり、現代社会において経腸摂取物質を管理することは非常に重要になっているのだと思います。しかしながら、日常生活では、何が過不足なのかを判断する手段が乏しく、管理する体制も手段も十分ではないように思います。飽食の現代社会の中では食品も危険性のある毒物になっているのではないのでしょうか？健康食品は、ダイエット食品で健康被害があったように、摂取しすぎた食品によって起った肥満などの結果に対して、さらに食品（毒物になる可能性がある）で補おうとする部分があると思います。

臨床検査技師は其中で、実際の栄養源の過不足の判定に関する技術的な研究、検査値に食品由来物質が与える影響などを研究し、社会に還元できると考えています。

かなり最近まで、臨床検査技師は病院検査室という場所で甘やかされてきました。しかし、チーム医療に携わり、患者様と接した真の臨床検査技師として活躍する為にも健康食品管理士は有用なツールであると感じています。

最近、香川県臨床検査技師会は無償で血液検査を行い、AED（自動体外式除細動器）の指導などを行う、「健康祭り」という催しを行いました。その中で健康食品相談コーナーを作り、地域の皆様と関わりました。今後も、病院の内外で健康食品の正しい情報を与えることが出来ればと考えています。